

不同意メッセージに気づく重要性

- 「不同意メッセージを察知して未然に対応することでBPSDを予防できる。」¹⁾
- 「不同意メッセージに介護者が気づかなければ、スケジュールに沿って次々と誘導することになり、認知症の人が我慢の限度を超えたときにBPSDにつながる。」¹⁾

→よって、不同意メッセージに気づいて、**BPSDを予防する必要がある**

1) 藤生大我、内藤典子、滝口優子、伊東美緒、山上徹也、山口晴保、**BPSD**予防を目指した「**BPSD**気づき質問票57項目版(**BPSD-N57**)」の開発、認知症ケア研究誌**3:24-37**、**2019**.

不同意メッセージに気づきBPSDを予防できた事例

青字は不同意メッセージ

- 事例1: **K**病院入院中・血管性認知症・男性
 - 食欲がなく、食事のときに、「食べなければ弱りますよ。」と職員から口うるさく言われ、黙って聞いてスプーンをもっている→①服従(しぶしぶ従う)
 - それでも食べることを中断するため、「管を鼻から入れることになりますよ」と職員が言い聞かえないふりをする→②遮断
 - 職員がスプーンをもち、本人に無理に口に運ぼうとしたら、「かんべんしてくれよ。」と職員の手を払い、その後興奮が収まらない→介護の拒否、興奮(BPSD)
- 振り返り・反省: ①②の段階から、不同意メッセージに気づいて、職員のペースに無理に誘導しなければBPSDは防げた予防できていた

不同意メッセージに気づきBPSDを予防できた成功事例

青字は不同意メッセージ

- 事例2: **K**病院入院中、**90**歳代、アルツハイマー型認知症、女性、難聴あり
- 食事やリハビリ、入浴とスケジュールがタイトに決まっていた。なかなか、職員の声が聞き取れず、「この若いもん(職員)はなっていない」とブツブツ小言をいう。→**憤懣(ふんまん)**
- 失禁したときに、職員がおむつ交換をしようとする、「誰かが勝手に水をこぼしていった。」と訴える→**転嫁**
- **成功したケア: 本人用のホワイトボードを用意して、【お願い】を文字に書いて、手をあわせると、笑顔が表出。「しかたないね。あんたのためにやってあげるよ。」と快くケアのスケジュールを承諾する。**